



五建第26号
平成19年5月7日

国土交通省道路局長 殿

五戸町長 三浦 正名



中期的な計画の作成にあたってのご意見の
提出について（回答）

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のありました標記のこと
について別紙のとおり回答します。

今後の道路政策や道路の整備・管理についての意見

・重点化を進める上で特に優先度の高い政策

当地方を取り巻く現状は、若年層の流失による高齢化・過疎化が大きな問題となっている。

これらの問題解決には地場産業の振興、都市と農村の交流促進、観光資源の活用等があげられるが、この対策に道路網の整備を欠くことのできない要因である。

中でも県南地方の拠点都市である八戸市との連携を密にする上でも、両地域間の交通体系の拡充を図ることによって、物流は言うまでもなく雇用の場、通学の間が確保され町活性化が図られるものと期待される。

また、八戸市内の車の流れを円滑にするためにも環状線を早期に実現することによって通勤・通学時間が大幅に短縮され近郊の町村のベッドタウン化が推進されることが期待される。

県南地方の拠点病院となっている八戸市民病院への交通の利便が悪く、緊急搬送等時間を要するのが実状であることから、東北縦貫道八戸道西インターチェンジ建設が実現することによって搬送時間が大幅に短縮され安全・安心な町づくりに貢献する。

国が目指す、大きい括りでの合併を実現するためには近隣市町村間の道路網整備が不可欠であり、道路網整備の実現によって地域住民へのサービス低下が避けられ大規模合併の気運が醸成され促進が図られる。

これまで、道路は造ることが先決で弱者への対応が遅れている感が拭えないのが実情であり、増大する高齢者や障がい者が安心して暮らせるためバリアフリー対策を重視していくべきではないか。

このような観点から、道路整備はまだまだ著にあると推測され、道路特定財源の確保は今後も継続することを強く望むものである。

・効率化を徹底的に進める上で重視すること

道路建設には膨大な資本投下が必要とされているが、新しい技術・工法を積極的に導入するとともに、入札の適正化を促し建設費のコストダウンを図っていく。

また、高速料金が高く利用者少ないという現象にあるが、利用者あってこそその施設であり、高速料金の低廉化と利用者の利便を考慮した、短い距離に加え、利用しやすいインターチェンジの増設を積極的に進める。

これまで、道路建設は長い時間を要して完成に至っているのが定説となっているのは、用地の確保等をやむを得ないことであろうが、短時間の資本投下し、タイムスケジュールの迅速化を進めることによって、建設費の低廉化が図られる。

・その他、道路政策や道路整備・管理全般について

高度成長期、市町村道整備が促進され、本町においても整備率、舗装率とも60パーセントを超えているが、建設後20年を経過するものがほとんどで舗装の前面打ち換え、側溝の改修等が待ったなしの状況である。

道路建設には一定の補助があるものの、維持補修費は町単独費であることから、昨今地方交付税の大幅な削減等により補修がままならない状況にあることから、市町村道の維持補修費に対しても道路特定財源を活用できるよう配慮してもらいたい。

国及び地方財政が硬直化される中であって、人口集中地区の道路整備が最優先され、過疎や地方の道路整備は遅々として進まない状況にあるが、この傾向は益々顕著になれば地方の過疎化は一層拍車がかかることが予測されることから、効率化の徹底に反することであるが地方の道路建設にも一定配分を行い、国土の保全に資していくことが肝要と考える。